

令和6年 年頭の辞

九州運輸局鉄道部長 永松靖二



あけましておめでとうございます。
令和6年の年頭にあたり、ごあいさつ申し上げます。

鉄軌道、索道事業者の皆様におかれましては、日頃から地域の皆様の通勤や通学など日常生活を支える交通手段として、また、観光振興や地域振興、活性化の観点からも重要な役割を担っていただいていることにつきまして、心から敬意を表し感謝申し上げます。

昨年は、3月に福岡市地下鉄の七隈線延伸区間（天神南駅～博多駅）が開業、7月には、南阿蘇鉄道が平成28年に発生した熊本地震から復活し、全線で運転を再開されました。また、平成29年九州北部豪雨で被害を受けたJR九州の日田彦山線の一部区間が8月28日にBRT「ひこぼしライン」として生まれ変わり開業致しました。これらの線区では、たくさんのお客様にご利用いただき、新たな賑わいが創出されています。九州運輸局といたしましても、引き続き支援を行ってまいります。

近年、豪雨や台風などの自然災害が頻発、激甚化し、毎年多数の鉄道施設に被害が発生しております。昨年も、豪雨により複数の線区が被災しました。被災した線区では、一刻も早く、また安全に復旧することを目指し、鉄軌道事業者の皆様をはじめ、関係する皆様のご尽力により速やかに復旧することができました。

一方、令和2年7月豪雨により甚大な被害を受けたくま川鉄道は令和7年度に全線での運転再開をめざし、復旧工事が進められております。また、JR九州肥薩線につきましては、一昨年3月に設置した「JR肥薩線検討会議」を踏まえ、復旧方法及び復旧後の在り方などの課題について引き続き協議を行っているところであり、今後も関係機関と連携しながら、復興に向けて関係者と協議を行うとともにできる限りの支援を行ってまいります。

人口減少や少子高齢化、新型コロナウイルスの影響などを受け、鉄軌道のご利用が減少し、鉄軌道を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあります。このような状況を踏まえ、昨年、国土交通省では、地方鉄道の置かれた状況について関係者が危機認識を共有し、ローカル鉄道を再構築していくための新たな制度を創設しました。これから九州運輸局といたしましては、新設された制度により、鉄道事業者や沿線自治体など多様な関係者と連携、協働しながら、どのように地域の公共交通を守っていくかという観点にたって取り組んでまいります。

鉄軌道輸送の安全確保につきましては、運輸安全マネジメント評価により事業者の自主的な安全管理体制を構築するとともに、施設、車両の保守管理や運転取り扱いに関する監査、指導を引き続き実施してまいります。併せて、管内の鉄軌道事業者を対象として「保安連絡会議」を開催するなど事業者への安全意識の高揚と情報の共有化を図ってまいります。そのほか、踏切事故の防止、橋梁やトンネルなどの老朽化対策、鉄道施設のバリアフリー化などの課題につきましては、引き続き補助制度を活用する

など支援に取り組んでまいります。

鉄軌道、索道の最大の使命は輸送の安全確保です。各社局におかれましては、より一層の安全対策を講じ事故防止の推進に努めて頂きますようお願いいたします。九州運輸局としましても、安全安心で快適な輸送サービスの実現に向け、皆様のご理解とご協力を得ながら様々な課題に取り組んでまいります所存です。

結びに、鉄軌道、索道事業の益々の発展と皆様のご健康、ご多幸を祈念いたしまして新年のあいさつといたします。